

様式第2号

視察研修先	地方議員研究会	氏名	壮風会 佐藤政人
視察研修項目	「令和8年度予算審議集中講座」		
<p>感想・所見など</p> <p>【1月27日研修「自治体財政の勘所」】</p> <p>これからの自治体財政の現状と課題、そして長期的な視野に立った予算の考え方について学んだ。市民のみなさんにも関係の深い内容だったので、専門用語をできるだけ減らし、わかりやすく報告します。</p> <p>まず示されたのは、「自治体の財布はこれから一段と厳しくなる」という現実です。人口減少と少子高齢化が進む中で、介護や医療、子育て支援といった分野の支出は増え続けています。一方で、税金などの収入は大きく伸びにくく、さらに学校や市役所、公共施設、道路・上下水道など、高度成長期につくったインフラの老朽化が一気に進み、その修繕や建て替えにも多額の費用が必要になります。つまり、「お金は増えづらいのに、使わなければならない分野は増えている」という、構造そのものが厳しくなっているという指摘でした。</p> <p>こうした中で重要になるのが、「今年だけでなく、10年後・20年後を見据えてお金の使い方を考える」「枠予算」という視点です。講座では、自治体の借金の大きさや返済の負担、毎年の収入と支出のバランスを示す指標を用いて、将来の財政状況をシミュレーションする方法が紹介されました。例えば、「このまま同じような事業やサービスを続けた場合、何年後にどのくらいの赤字や借金が膨らむ可能性があるのか」といった見通しを数字で示し、早い段階で対策を検討することの大切さが強調されました。</p> <p>また、公共施設の将来像についても考えさせられました。老朽化した建物を「ただ建て替える」のではなく、「本当に今と同じ規模や数が必要なのか」「複合化して維持費を抑えられるか」「地域のコミュニティや利便性をどう守るか」といった視点から見直す必要があるという話でした。単なるコスト削減ではなく、「将来世代に過大な負担を残さず、暮らしの質も守る」という両立をめざす考え方です。</p> <p>講義では、議会の役割として、「単年度の予算書の数字を見るだけでなく、長期の見通しを踏まえてチェックすること」が求められていると示されました。財政の専門用語を理解すること以上に、「市民生活にどんな影響が出るのか」「子どもや孫の世代にどんな負担を残すのか」という目線で判断することが重要だという指摘は、非常に印象的でした。</p> <p>今回の前半研修を通じて、寒河江市でも、長期の財政見通しをもっとわかりやすく市民と共有し、公共施設の再編や重点的に守るべき分野について、早い段階から議論を進める必要があると強く感じました。今後の議会では、「今だけでなく、将来の寒河江市の姿」を意識しながら、予算の中身を丁寧にチェックしていきたいと思えます。</p>			

【1月28日研修「議員力を示す質問術」】

「お金の使い方をどうチェックし、どう良くしていくか」という、より実践的な内容を学びました。議会での質問の仕方や、事業の見直しの考え方に直結する内容であり、市民のみなさんにもできるだけわかりやすく報告します。

この日の中心テーマは、「お金の使い方を“目的”と“成果”から見直す」ということでした。予算や事業は、「去年もやっていたから今年もやる」という惰性で続けてしまいがちですが、限られた財源を有効に使うためには、「そもそもこの事業は何のために行うのか(What is it for?)」をはっきりさせる必要があります。講師からは、「誰の、どんな困りごとを解決するための事業なのか」「本当に今のやり方がベストなのか」という問いを、議会側が繰り返し投げかけることの重要性が示されました。

具体例として、イベント事業が取り上げられました。従来は「参加者数が多いから成功」と評価されがちですが、それだけでは不十分であり、「地域のつながりが深まったか」「商店街の売上や来街者数が増えたか」「子どもたちの学びや体験としてどんな価値があったか」など、具体的な成果まで踏み込んで確認する必要があると説明されました。そのために、あらかじめ成果を測るための指標(KPI)を設定し、決算のタイミングで「やってみてどうだったか」を振り返る仕組みづくりが重要だと学びました。

また、「決算」と「次の年度の予算」をつなげて考える発想も強調されました。決算は「お金をどう使ったかの結果」であり、それを踏まえずに次の予算を決めてしまうと、うまくいかなかった事業がそのまま続いてしまいます。講座では、「成果の乏しい事業は改善・縮小・終了を検討し、その分の財源を本当に必要な分野に回す」「逆に成果が出ている事業は、必要に応じてしっかり支える」という循環をつくるのが、これからの自治体に求められる姿だと示されました。

質疑の組み立て方についても、実践的なアドバイスがありました。「この事業は何のためか(目的)」「対象は誰か」「どんな方法で行うのか」「結果として何が変わるのか」という4つのポイントを押さえて質問すると、事業の良し悪しや改善点が見えやすくなり、市民にも理解しやすい議論になるというものです。これは、寒河江市議会での一般質問や委員会審査にも、そのまま活かせると感じました。

さらに、「議員一人ひとりが、自分なりのまちの将来像を持つこと」の重要性が改めて指摘されました。単に個別の事業に賛成・反対するのではなく、「10年後・20年後にどんな寒河江市であってほしいか」を思い描き、その実現のために、今どの分野にお金を重点的に投じ、どこを見直すべきかを考えることが、議会の役割だという考え方です。

今回の後半研修を通じて、寒河江市でも、事業ごとの「目的」と「成果」を市民に見える形で整理・公表すること、決算での反省を次年度の予算見直しに必ず結び付けること、そして議会として市民目線の言葉で説明することが、今後の大きな課題だと感じました。

【総括報告書】

今回の2日間の研修を通じて、私は「これからの寒河江市の予算は、今だけでなく将来世代も見据えて考えなければならない」「お金の使い方は“目的”と“成果”から問い直す必要がある」という2点を強く実感しました。財政が厳しくなる中だからこそ、何にお金を使い、何を見直すのかを、市民と情報を共有しながら丁寧に議論していくことが大切です。今後の議会活動では、「この事業は寒河江市の将来にどんな良い変化をもたらすのか」という視点を軸に、わかりやすい説明と、納得感のある予算審議に努めてまいります。